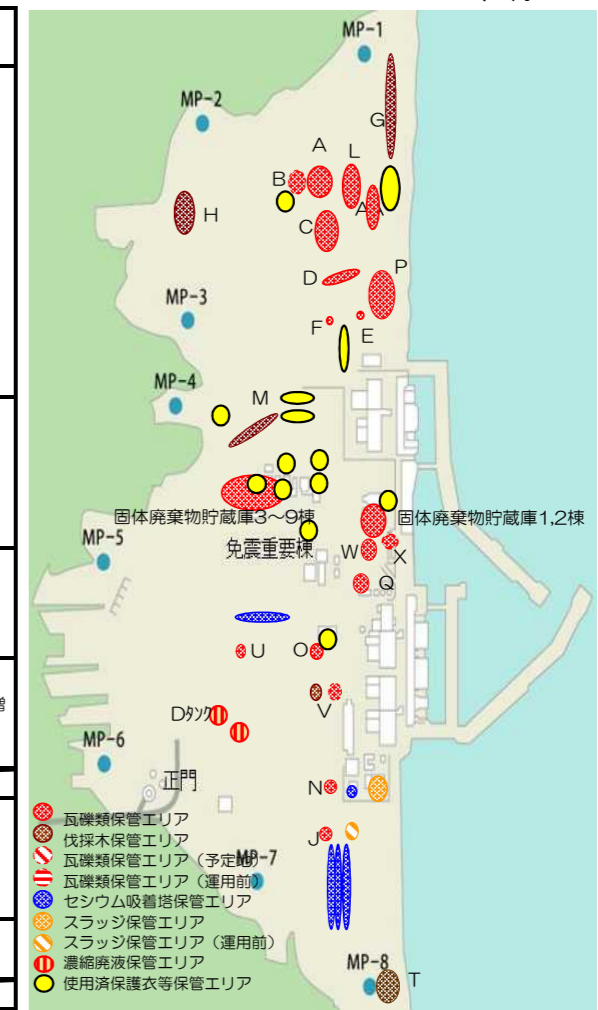


### 瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の管理状況(2020.4.30 時点)

分類	保管場所	保管方法	エリア境界 空間線量率 (mSv/h)	保管量	前回集約からの増減 <sup>※1</sup> (2020.3.31 - 2020.4.30)	変動 <sup>※2</sup> 理由	エリア 占有率	保管量 <sup>※3</sup> /保管容量 (割合)	トピックス	
瓦礫類	屋外集積 (0.1mSv/h以下)	A	屋外集積	0.25	400 m <sup>3</sup>	微減 m <sup>3</sup>	③	0%	211000 / 266500 (79%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>フランジタンク解体片</li> <li>2020年4月末時点でコンテナ1,033基保管。</li> <li>エリアP1コンテナ数: 627基 (2015年6月15日~)</li> <li>エリアAAコンテナ数: 406基 (2018年3月15日~)</li> <li>エリアAの運用変更により、保管容量(13,800m<sup>3</sup>)増加。(2020年1月)</li> <li>エリアAは1~30mSv/hの瓦礫類を仮設集積中。これら瓦礫類を固体庫に移動後、低線量率瓦礫類一時保管エリアとして使用予定。</li> </ul>
		B	屋外集積	0.01	5,300 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	100%		
		C	屋外集積	0.01未満	63,300 m <sup>3</sup>	+100 m <sup>3</sup>	②⑤	100%		
		F2	屋外集積	0.01未満	6,400 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	85%		
		J	屋外集積	0.01	6,200 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	78%		
		N	屋外集積	0.01未満	9,600 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	96%		
		O	屋外集積	0.01未満	44,000 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	86%		
		P1	屋外集積	0.01未満	55,700 m <sup>3</sup>	+1,000 m <sup>3</sup>	①④⑤	87%		
		U	屋外集積	0.01未満	700 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	100%		
	V	屋外集積	0.01	6,000 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	100%			
	AA	屋外集積	0.01未満	13,400 m <sup>3</sup>	+300 m <sup>3</sup>	④	37%			
	シート養生 (0.1~1mSv/h)	D	シート養生	0.01未満	2,600 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	58%	42700 / 71000 (60%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>エリアWでの車両解体(プレス等)完了。(2018年1月)</li> </ul>
		E1	シート養生	0.02	14,300 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	89%		
P2		シート養生	0.01	5,800 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	64%			
W		シート養生	0.03	12,100 m <sup>3</sup>	微増 m <sup>3</sup>	①②⑥	41%			
X		シート養生	0.01	7,900 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	65%			
覆土式一時保管施設、 容器(1~ 30mSv/h)	L	覆土式一時保管施設	0.01未満	16,000 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	100%	17900 / 24600 (73%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>主な瓦礫類は、1~3号機工事等で発生した瓦礫類。</li> <li>覆土式4槽の受入開始に伴い、保管容量(4,000m<sup>3</sup>)増加。(2018年5月)</li> <li>エリアAの運用変更により、保管容量(7,100m<sup>3</sup>)減。(2020年1月)</li> </ul>	
	E2	容器 <sup>※4</sup>	0.01未満	1,200 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	68%			
	F1	容器	0.01未満	600 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	99%			
	Q	容器	0.04	0 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	0%			
固体廃棄物貯蔵庫	固体廃棄物貯蔵庫	容器 <sup>※4</sup>	0.01	22,200 m <sup>3</sup>	+400 m <sup>3</sup>	②③⑥	46%	22200 / 48000 <sup>※5</sup> (46%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>主な瓦礫類は、1~3号機工事等で発生した瓦礫類。</li> <li>固体廃棄物貯蔵庫9棟の運用開始に伴い、保管容量(33,600m<sup>3</sup>)増加。(2018年2月)</li> </ul>	
合計(ガレキ)				293,800 m <sup>3</sup>	+1,700 m <sup>3</sup>	—	72%			
伐採木	屋外集積 (幹・根・枝・葉)	G	屋外集積	0.01未満	25,300 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	63%	97000 / 134000 (72%)	
		H	屋外集積	0.01未満	31,700 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	74%		
		M	屋外集積	0.01未満	39,600 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	88%		
		V	屋外集積	0.01	400 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	7%		
	一時保管槽 (枝・葉)	G	伐採木一時保管槽	0.01未満	26,200 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	88%	37300 / 41600 (90%)	
T	伐採木一時保管槽	0.01未満	11,100 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	94%				
合計(伐採木)				134,300 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	77%			
保護衣	屋外集積	容器	0.02	44,100 m <sup>3</sup>	-2,300 m <sup>3</sup>	⑦	65%	44100 / 68300 (65%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>使用済保護衣等焼却量 7399t (2020年4月末累積)</li> <li>焼却灰(プラスチック含む)のドラム缶数 1837本 (2020年4月末累積)</li> </ul>	
合計(使用済保護衣等)				44,100 m <sup>3</sup>	-2,300 m <sup>3</sup>	—	65%			

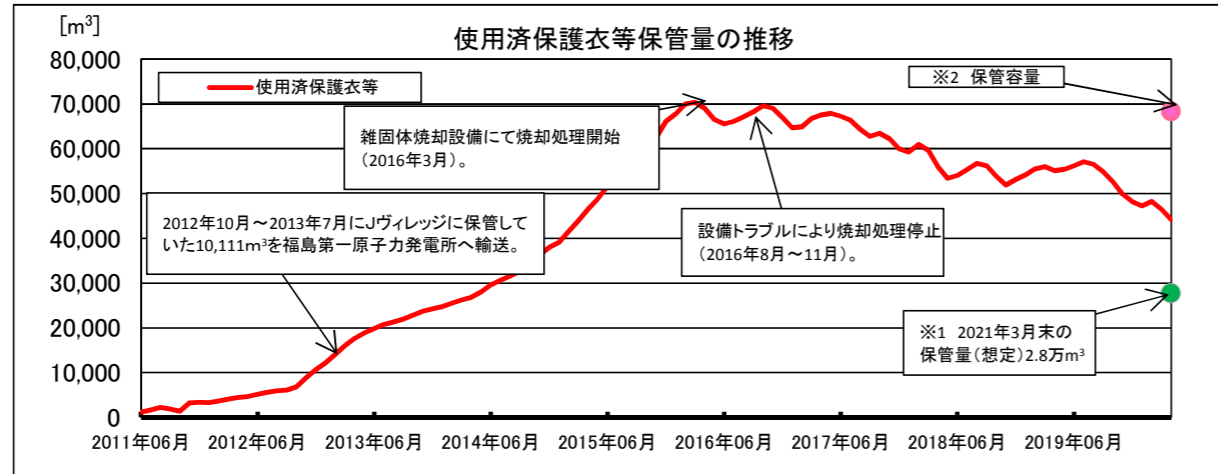
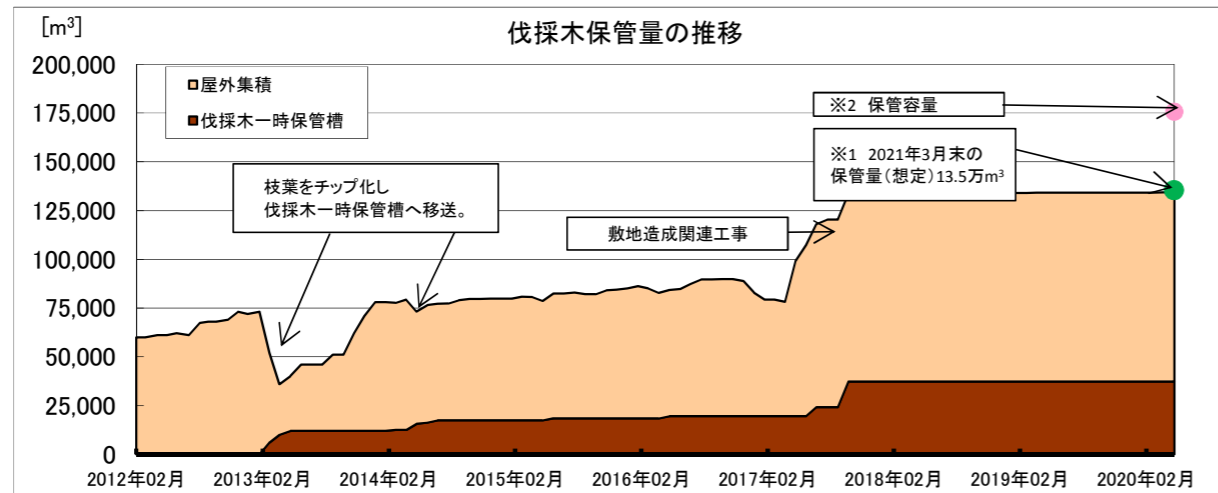
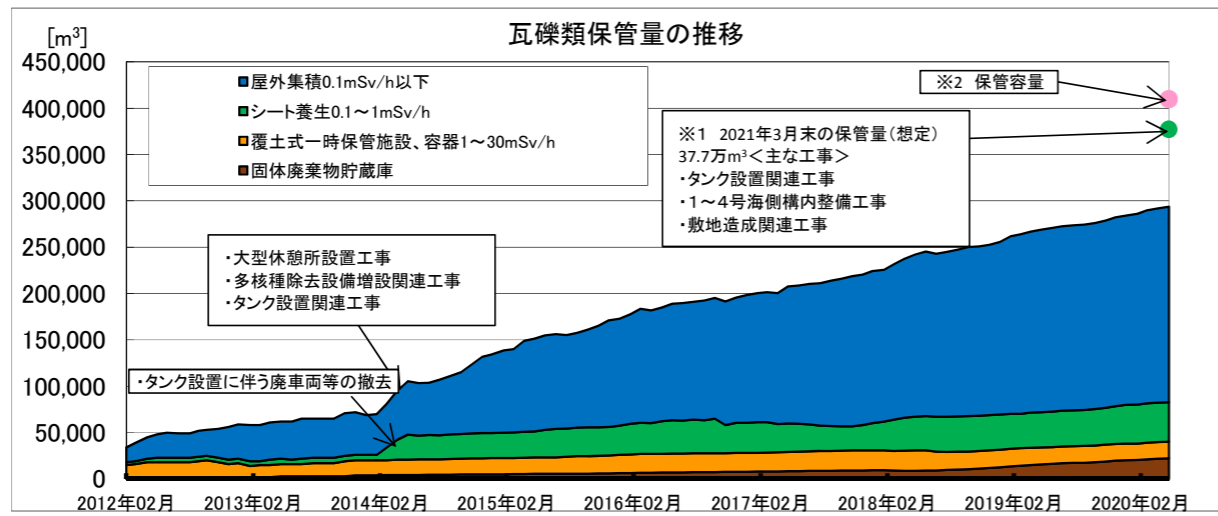
※1 100m<sup>3</sup>未満を端数処理しており、微増・微減とは100m<sup>3</sup>未満の増減を示す。  
 ※2 主な変動理由: ①タンク関連工事 ②1~4号機建屋周辺瓦礫撤去関連工事 ③エリア整理のための移動(A→固体庫) ④フランジタンク除染作業  
 ⑤港湾関連工事 ⑥水処理設備関連工事 ⑦焼却運転  
 ※3 端数処理で100m<sup>3</sup>未満を四捨五入しているため、合計値が合わないことがある。  
 ※4 水処理二次廃棄物(小型フィルタ等)を含む。  
 ※5 最新値に更新(45600→48000)。



### 水処理二次廃棄物の管理状況(2020.5.7時点)

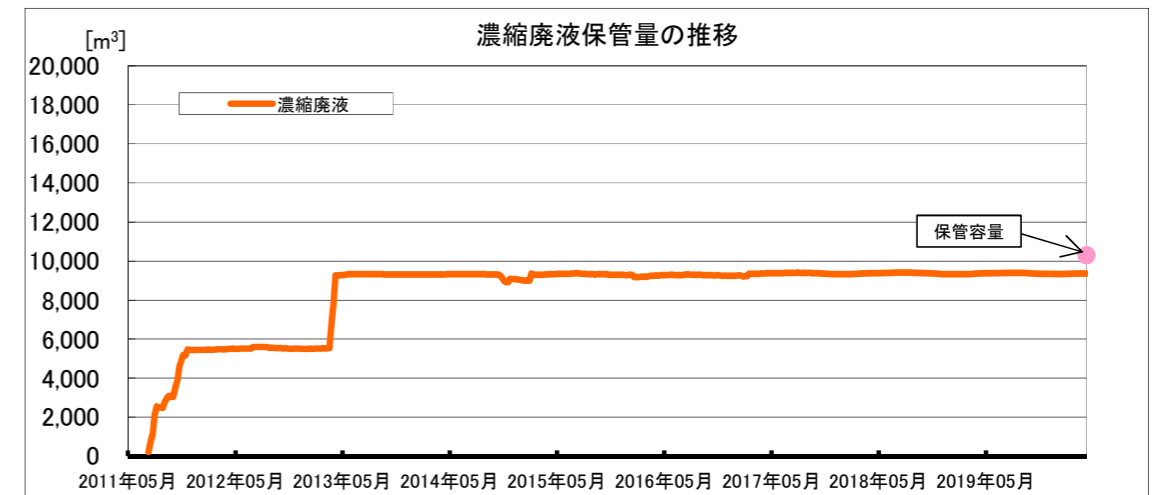
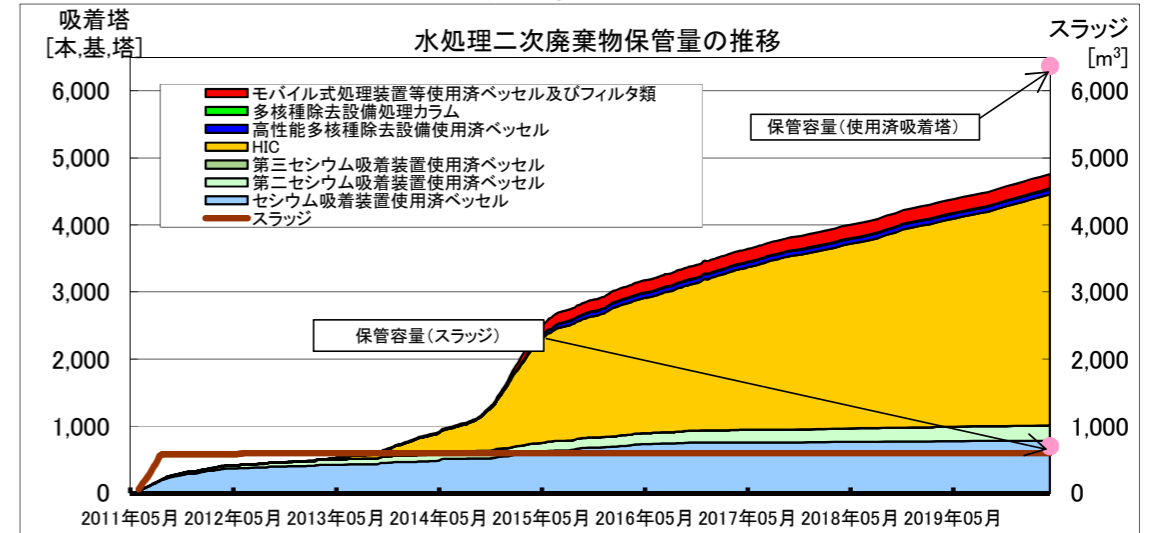
分類	保管場所	種類	保管量	前回集約からの増減 (2020.4.3 - 2020.5.7)	保管量/保管容量 (割合)	トピックス
水処理二次 廃棄物	使用済吸着塔 保管施設	セシウム吸着装置使用済バessel	779 本	0 本	4759 / 6372 (75%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>吸着塔一時保管施設の増容量が認可(2015年12月14日)</li> <li>使用前検査完了(2017年5月26日)に伴う保管容量増(第四施設架台129塔分)</li> </ul>
		第二セシウム吸着装置使用済バessel	230 本	0 本		
		第三セシウム吸着装置使用済バessel	2 本	0 本		
		多核種除去設備等保管容器	既設 1,743 基	+16 基		
		高性能多核種除去設備使用済バessel	高性能 74 本	0 本		
		多核種除去設備処理カラム	既設 17 塔	0 塔		
		モバイル式処理装置等使用済バessel及びフィルタ類	212 本	0 本		
廃スラッジ 貯蔵施設	廃スラッジ	417 m <sup>3</sup>	-180 m <sup>3</sup>	417 / 700 (60%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>除染装置の運転計画は無く、新たに廃棄物が増える見込みは無い。</li> <li>準備が整い次第、除染装置の廃止について実施計画の変更申請を行う。</li> <li>Dピット除塩作業終了に伴い廃スラッジの量が減少した。(2020年4月末)</li> </ul>	
濃縮廃液タンク	濃縮廃液	9,357 m <sup>3</sup>	+1 m <sup>3</sup>	9357 / 10300 (91%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>タンク水位の変動は、計器精度±1%の誤差範囲内。(現場パトロール異常なし)</li> <li>水位計0%以上の保管量: 9257 [m]</li> <li>タンク底部~水位計の保管量(DS): 約100[m]</li> </ul>	

### 瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の管理状況(2020.4.30 時点)



※1 瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の保管量(想定)は、実施計画(2019年1月28日認可)の予測値を示す。  
※2 瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の保管容量は、運用上の上限を示す。

### 水処理二次廃棄物の管理状況(2020.5.7時点)



廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議資料  
「瓦礫類・伐採木・使用済保護衣類等の管理状況」の訂正について

2020年5月28日

---

東京電力ホールディングス株式会社

**TEPCO**

- 「瓦礫類・伐採木・使用済保護衣類等の管理状況（2020.4.30）」の作成・確認を行っていたところ、当該資料内の固体廃棄物貯蔵庫の保管容量の値が、社内の管理値※と異なっていることを確認
- そのため、今月の資料において数値の訂正を実施した
  - 訂正前：45,600m<sup>3</sup>
  - 訂正後：48,000m<sup>3</sup>
- 当該資料は固体廃棄物の保管量を毎月更新してお示ししているものである一方で、固体廃棄物貯蔵庫の保管容量は頻繁に変更になる値ではない
- そのため、当該資料の作成に際して、保管容量の数値の変更管理を失念し、管理状況に応じた管理値の変更や、実施計画変更状況の反映をしていなかったものと推定
- 今後、原因の調査や、過去の会議資料における未更新の値の抽出し同様の訂正措置や再発防止対策を検討する

※実施計画で認可を得た値に対し、保管状況を考慮して設定した運用管理上の値（実施計画の値に対し余裕を持った少ない値で管理）

# 未更新箇所と更新後の値



瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の管理状況(2020.3.31 時点)									
分類	保管場所	保管方法	エリア係り 空容積容量 (m <sup>3</sup> Sw/h)	保管量	前期末からの増減 <sup>※1</sup> (2020.2.28 - 2020.3.31)	変動 <sup>※2</sup> 理由	エリア 占有率	保管量 <sup>※3</sup> / 保管容量 (割合)	トピックス
放射能汚染 (0.1mSv/h以下)	A	屋外集積	0.21	400	0	無変	0%	209700 / 266500 (79%)	・フランタタンク鋼線片 2020年3月末時点でコンテナ1,000個貯蔵。 エリアA1コンテナ数: 622個 (2019年8月19日～) エリアAAコンテナ数: 395個 (2018年3月19日～) ・エリアAの更新作業により、貯蔵容量(13,800m <sup>3</sup> )確保。 (2020年1月) ・エリアAは1～30mSv/hの放射能汚染区域中、これら高放射能区域に 対応し、高放射能汚染一時貯蔵エリアとして使用予定。
	B	屋外集積	0.01	5,300	0	—	100%		
	C	屋外集積	0.01未満	63,100	-100	①②③	100%		
	F.2	屋外集積	0.01未満	6,400	0	—	85%		
	J	屋外集積	0.01	6,200	0	—	78%		
	N	屋外集積	0.01未満	9,600	0	—	96%		
	O	屋外集積	0.01未満	44,000	+100	②③	86%		
	P.1	屋外集積	0.01未満	54,700	+500	②③	85%		
	U	屋外集積	0.01未満	700	0	—	100%		
	V	屋外集積	0.01	6,000	+100	②③	100%		
	AA	屋外集積	0.01未満	13,100	+600	②	36%		
	瓦礫類 シート養生 (0.1～1mSv/h)	D	シート養生	0.01未満	2,600	0	—		
E.1		シート養生	0.02	14,300	+100	②	89%		
P.2		シート養生	0.01	5,800	0	—	64%		
W		シート養生	0.03	12,100	+100	②③	41%		
X		シート養生	0.01	7,900	0	—	65%		
L		覆土式一時貯蔵施設	0.01未満	16,000	0	—	100%		
覆土式一時貯蔵施設 西部 (1～30mSv/h)	E.2	容器 <sup>※4</sup>	0.01未満	1,200	0	—	68%	17900 / 24600 (73%)	・主な瓦礫類は、1～4号機工事等で発生した瓦礫類。 ・覆土式4機の実入開始に伴い、貯蔵容量(4,000m <sup>3</sup> )確保。 (2018年5月) ・エリアAの更新作業により、貯蔵容量(7,000m <sup>3</sup> )確保。 (2020年1月)
	F.1	容器	0.01未満	600	0	—	99%		
	Q	容器	0.04	0	0	—	0%		
	固形廃棄物貯蔵庫	容器 <sup>※4</sup>	0.01	21,800	+700	②③	48%		
合計(ガレキ)				292,000	+2,200	—	72%		
伐採木	G	屋外集積	0.01未満	25,300	0	—	63%	97000 / 134000 (72%)	
	H	屋外集積	0.01未満	31,700	0	—	74%		
	M	屋外集積	0.01未満	39,600	0	—	88%		
	V	屋外集積	0.01	400	+100	②	7%		
	一般廃棄物 (枝・葉)	G	伐採木一時保管槽	0.01未満	26,200	0	—		
T	伐採木一時保管槽	0.01未満	11,100	0	—	94%			
合計(伐採木)				134,300	+100	—	77%		
保護 放射能汚染	容器	0.02	46,400	-1,800	②	68%	46400 / 68900 (68%)	・放射能汚染衣類貯蔵庫 ・保護服(プラスチック製)	
合計(使用済保護衣等)				46,400	-1,800	—	68%		

水処理二次廃棄物の管理状況(2020.4.2時点)									
分類	設備箇所	種類	設備量	前期末からの増減 (2020.3.6 - 2020.4.2)	設備量 / 保管容量 (割合)	トピックス			
使用済設備 保管施設	セシウム吸着装置使用済ベッセル	第一セシウム吸着装置使用済ベッセル	779	0	本	4718 / 6372 (74%)	・最終一時貯蔵施設の増設が完了(2019年12月14日) ・増設が完了(2017年5月29日)に付、貯蔵容量確保		
		第二セシウム吸着装置使用済ベッセル	230	+2	本				
		第三セシウム吸着装置使用済ベッセル	2	+1	本				
		多核種除去設備等保管容器	1,727	+8	基				
		高性能多核種除去設備使用済ベッセル	1,677	+17	基				
		高性能多核種除去設備処理カラム	74	0	本				
多核種除去設備処理カラム	17	+2	基						
モバイル式処理装置等使用済ベッセル及びフィルタ類	212	+2	本						
廃スラッジ貯蔵施設	廃スラッジ		597	0	m <sup>3</sup>	597 / 700 (85%)	・貯蔵容量の増設計画はなく、新たに増設物が導入される見込みはない。 ・容量が残り14%、貯蔵容量の確保について実施計画の策定中である。		
	濃縮廃液タンク	濃縮廃液	9,356	+11	m <sup>3</sup>	9356 / 10300 (91%)	・タンク水質の劣化は、計量誤差±1%の誤差範囲内。(2019/11/01現在) ・水質計6%以上の設置量: 9256個 タンク容量～水質計の設置量(C): 約1005個		

保管場所 ~ 保管量<sup>※3</sup> / 保管容量 (割合)

~

固体廃棄物貯蔵庫 ~ 21800 / 45600 (48%)

正: 48000(m<sup>3</sup>)

水処理二次廃棄物の管理状況(2020.4.2時点)									
分類	設備箇所	種類	設備量	前期末からの増減 (2020.3.6 - 2020.4.2)	設備量 / 保管容量 (割合)	トピックス			
水処理二次 廃棄物	廃スラッジ貯蔵施設	廃スラッジ	597	0	m <sup>3</sup>	597 / 700 (85%)	・貯蔵容量の増設計画はなく、新たに増設物が導入される見込みはない。 ・容量が残り14%、貯蔵容量の確保について実施計画の策定中である。		
	濃縮廃液タンク	濃縮廃液	9,356	+11	m <sup>3</sup>	9356 / 10300 (91%)	・タンク水質の劣化は、計量誤差±1%の誤差範囲内。(2019/11/01現在) ・水質計6%以上の設置量: 9256個 タンク容量～水質計の設置量(C): 約1005個		